

事務事業評価表

○基礎情報

課名		図書館	作成責任者	常勤職員		常勤職員以外			時間外勤務時間	
施策目標	7	地域社会を支える情報拠点としての機能をたかめる	湯澤 さいみ	管理職	左記以外	再任用短時間職員	臨時職員	非常勤嘱託職員	総時間	一人あたり月平均
				1 人	14 人	5 人	28 人	19 人	1,916 時間	11.4 時間

1 施策指標と実績(Do)

施策指標名	3次実施計画の現状値	目標値(30年度)	実績値			
			26年度	27年度	28年度	29年度
図書館利用者数	297,412人	330,000人	297,412人	335,395人	330,234人	316,200人
図書館の市民登録率	54.2%	55.0%	54.2%	55.8%	57.2%	57.8%
0	0.0%	0				

(評価の見方)

- ・ **S** 事業の指標を概ね(80%)達成し、成果があがった
- ・ **A** 事業の指標は達成できなかったが、成果はあがった
- ・ **B** 事業の指標を概ね(80%)達成し、成果は今後見込める
- ・ **C** 事業の指標は達成できなかったが、成果は今後見込める
- ・ **D** 事業の指標を概ね達成したが、成果は見込めない
- ・ **E** 事業の指標を達成できず、成果も見込めない
- ・ **Z** 未着手事業(中核市関連のものを含む)
- ・ **実績なし** 事業実施の体制は整えていたが、実績がなかった(実施計画期間中で当該年度は実績のないものを含む)

2 事業実績(平成29年度)

No.	事務事業名 (第3次実施計画)	事務事業の目的・目指すべき成果・効果		Plan / Do							総合評価 (Check)			Action			
		何を・誰を (対象)	どうやって働िका (手段・方法)	どうしたいか(生ま れる成果・効果)	事業 性質	従事 者数	会計 区分	H28予算(円) H28決算(円)	H29予算(円) H29決算(円)	事務事業の指標名	H29目標値	H29実績値	評価	取組 時間	見直し検 討可能性	業棚 選定	休・ 廃止
1	施設維持管理及び 運営事業(本館)	利用者の利便向上及び図書館の快適な環 境保持する。			定例 定型	1.39	一般	27,701,375 25,319,377	25,809,981 25,458,982	開館日数	290日以上	291日	S	増加			
2	施設維持管理及び 運営事業(分館)	利用者の利便向上及び香川分館の快適な 環境保持する。			定例 定型	0.40	一般	323,612 277,233	256,200 250,767	開館日数	295日以上	295日	S	変動 なし			
3	会議室の利用貸出 事業	社会教育等団体へ活動場所を提供する。			定例 定型	0.58	一般	0 0	0 0	利用申請受付件数	1,200件	981件	S	変動 なし			
4	図書館協議会事業	地域の状況を踏まえ、利用者の声を十分に 反映した図書館を運営するために開催す る。			定例 定型	0.25	一般	160,000 160,000	160,000 150,000	協議会の開催数	4回	4回	S	変動 なし			
5	図書館資料収集事 業(本館)	図書、記録その他必要な資料を収集、整 理、保存し、一般公衆に供し、その教養、調 査研究、レクリエーション等に資するために 実施する。			定例 定型	2.41	一般	32,323,932 32,230,431	32,158,553 32,051,010	購入図書冊数	13,750冊	13,733冊	S	増加			
6	図書館資料収集事 業(分館)	図書、記録その他必要な資料を収集、整 理、保存し、一般公衆に供し、その教養、調 査研究、レクリエーション等に資するために 実施する。			定例 定型	0.50	一般	2,806,984 2,796,235	2,803,000 2,802,677	購入図書冊数	1,800冊	1,490冊	S	変動 なし			

7	図書館利用及び貸出事業(本館)	収集した図書資料を市民が利用して教養や知識を高め、教育と文化の発展を図る。	定例 定型	12.00	一般	36,132,922 ----- 35,911,609	38,539,220 ----- 38,529,164	資料貸出点数	640,000点	541,472点	S	変動 なし	●	●	
8	図書館利用及び貸出事業(分館)	収集した図書資料を市民が利用して教養や知識を高め、教育と文化の発展を図る。	定例 定型	2.22	一般	2,752,000 ----- 2,750,574	2,780,350 ----- 2,778,450	資料貸出点数	145,500点	129,052点	S	変動 なし	●	●	
9	移動図書館運営事業	図書館を利用することが困難な遠隔地の住民を対象に図書の貸出を行う。	定例 定型	3.81	一般	1,121,980 ----- 1,389,061	1,200,260 ----- 1,186,757	貸出点数	17,000点	15,547点	S	変動 なし	●		
10	図書室、図書コーナー運営事業	全ての市民が利用しやすいよう、身近な地域に図書施設を設置する。	定例 定型	6.61	一般	29,107,354 ----- 27,435,611	27,803,917 ----- 27,633,061	貸出点数(分室合計)	250,000点	350,584点	S	変動 なし	●	●	
11	図書館自主事業(本館)	生涯学習のきっかけづくりと推進を目的に行う。	定例 定型	1.74	一般	171,980 ----- 130,195	170,000 ----- 169,775	自主事業の開催数	25事業	44事業 (参加者数1,485人)	S	変動 なし			
12	図書館自主事業(分館)	親子や子どもを対象に、主に子育て支援のための事業を実施する。	定例 定型	0.42	一般	30,000 ----- 30,000	30,000 ----- 30,000	自主事業の開催数	3事業	4事業 (参加者数56人)	S	変動 なし			
13	視聴覚資料事業	CDやDVDなどの視聴覚資料を収集し、地域の団体や市民へ貸出を行うことにより、市民の生涯学習活動を支援する。	定例 定型	0.49	一般	2,157,757 ----- 2,156,484	2,159,000 ----- 2,154,702	映画会の実施回数	37回	40回 (参加者数1,306人)	S	変動 なし			
14	各図書館協会事務事業	図書館職員のスキルアップを図るため、研修、情報交換を行う。	定例 定型	0.05	一般	67,000 ----- 67,000	67,000 ----- 67,000	研修等への参加回数	11回	11回	S	変動 なし			
15	図書館の相互利用事業	市民の生涯学習意欲の向上と図書館利用者の利便性を向上させる。	定例 定型	0.62	一般	46,440 ----- 37,746	42,000 ----- 35,370	相互利用冊数	19,800冊	22,159冊	S	変動 なし			
16	子ども読書活動推進事業	子どもたちが自主的に読書活動に取り組むことができるような環境を進めるとともに社会的な機運を醸成するための普及啓発に取組、子どもの穏やかな成長に資することを目標として実施する。	定例 定型	1.84	一般	2,631,585 ----- 2,601,218	2,632,000 ----- 2,630,640	ブックスタートパック配布率	80.0%	73.62%(1,317パック)	S	増加	●		
17	災害応急対策活動(本館・分館)	-	定例 定型	0.19	一般	0 ----- 0	0 ----- 0								
18	庁内共通事務(本館)	-	定例 定型	0.79	一般	84,000 ----- 43,866	164,000 ----- 105,221								
19	庁内共通事務(分館)	-	定例 定型	0.17	一般	7,000 ----- 7,887	30,200 ----- 29,865								
20	多世代共生住宅等拠点整備事業(図書館)	多世代共生拠点住宅等の整備に伴い、世代の交流のための拠点として、香川分館移転の可能性について検討する。	政策	0.56	一般	0 ----- 0	0 ----- 0	事業進捗状況	コンセプト及び規模の検討	想定していた手法を選択できなくなったため見送ることとなった。	実績 なし	増加			
合計				37.04		H29総予算(円) ----- H29総決算(円)	136,805,681 ----- 136,063,441								

3 実施計画事業の総括評価

人工・事務事業費・事務事業指標達成度の結果にかかる分析(Check)／今後の展望(Action)	
<p>図書館の第3次実施計画の事務事業数は、「災害応急対策活動」「庁内共通事務」を除き17事業である。これらの事業の評価結果は、実績がなかった「多世代共生住宅等拠点整備事業(図書館)」を除き、全て「S」評価となっており、大半の事業で成果を出すことができた。中でも、特に「図書室、図書コーナー運営事業」「図書館自主事業(本館)」「視聴覚資料事業」は目標値を超え、成果を出すことができた。</p> <p>施策指標における図書館利用者数は、本館・分館だけでなく、公民館等に併設された図書室計12か所と移動図書館車において貸出を行った人数をカウントしている。平成25年4月にまなびの窓口、平成27年4月にハマミーナ図書室が開室するなど、本の貸出については、自宅から身近な場所(図書室等)で図書館資料を受け取ることができるようになったことで利用者数が増えたが、平成28年度以降は減少傾向にある。(近隣市町村の藤沢市、平塚市、寒川町について見ると、平成21、22年度を境に減少傾向にある。)ただし、本館の場合、単なる図書館資料の貸出だけでなく、自主事業、映画会、おはなし会等も活発に行われており、これらの参加者数合計は4,548人である。このほか、読書相談・レファレンス、閲覧等の利用者もいることから図書館本館は賑わっており、利用者に対して座席が少ない状況にある。</p> <p>職員の時間外勤務に着目すると、総時間1,916時間、一人あたりに換算すると月平均11.4時間であり、平成28年度の総時間1,202時間、一人あたり月平均7.2時間と比べ増となっている。取組時間が増加となった事業としては4事業ある。「施設維持管理及び運営事業(本館)」は、LED照明器具工事を実施したことによる。「図書館資料収集事業(本館)」は、協働推進事業「郷土資料デジタルライブラリー推進事業」の事業企画、事業採択に係る事務量の増加による。「図書館利用及び貸出事業(本館)」は、5年に1度の図書館システム入れ替えに加え、新聞オンラインデータベース及び国立国会図書館デジタル化資料送信サービスの導入準備を行ったことによる。「子ども読書活動推進事業」は、学校との連携が活発になってきていることによる。子ども読書活動推進事業以外の事業については、一時的な現象と見ることができる。</p> <p>第2次実施計画以降、市民団体・企業・大学等との連携も行いながら様々な事業を実施してサービス向上に努めてきた。自主事業については、新たな利用者層の開拓だけでなく、学んだ成果を発揮する場としての役割も果たし、年々活発になっている。また、LED化による電気料の削減により、経費削減にも取り組んできた。残された見直しは、原点に立ち返り運営手法について見直すことである。</p> <p>「図書館利用及び貸出事業(本館)」「図書館利用及び貸出事業(分館)」「図書室、図書コーナー運営事業」「移動図書館運営事業」においては、非常勤嘱託職員及び臨時職員を雇用し、事業を実施している。このうち、「移動図書館運営事業」は、以前から図書館車の老朽化が課題となっており、貸出返却のネットワークの充実が休・廃止のタイミングと考える。それ以外の事業については、会計年度職員制度の問題もあるため、事業内容について事細かに洗い出しを行い、望ましい運営手法について検討する必要がある。図書の貸出サービスは、図書館にとって重要なサービスではあるが、必ずしも専門性を必要とするサービスではない。一方、レファレンスサービス、資料収集方針に基づく選書・除籍による蔵書コレクションの構築、地域資料の保存・活用、読み聞かせ等の児童サービスについては、専門性を必要とするものである。これらのサービスの切り分けを行ったうえで、現状のサービスを低下させることなく、「地域を支える情報拠点としての図書館」を目指して運営できる手法についての検討が必要がある。</p>	

4 見直し検討可能性にチェックの入った事業のうち休・廃止検討事業

No.	事務事業名	休・廃止検討の理由
9	移動図書館運営事業	移動図書館車の老朽化が課題となっている。第2次実施計画の時点でも、分室増室により市内に貸出返却のネットワークが行きわたるまでの間のサービスとしており、新文化資料館への図書室設置までは存続していきたい。
-	-	-

5 働きかたの見直しにおける取組結果(28-29年度の2か年の取り組みの結果、得られた生産性向上などの成果)

No.	事務事業名	取り組みの結果
-	-	平成28年度よりGroupWatcherを全職員の一人一台パソコンに導入し、職員個々の「動き」に透明性が生じることにより事務の流れがスムーズになり、また、本館職員及び香川分館職員との行動改革の一助となった。
7	図書館利用及び貸出事業(本館)	平成29年度から窓口業務の見直しを行い、臨時職員から非常勤嘱託職員へと切り替えを行い、サービスの向上を図った。